

---

## 第6話 集結の絆

フェニックス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

第6話 集結の絆

### 【Zコード】

Z8345Y

### 【作者名】

フニックス

### 【あらすじ】

ミサト、ボスコはショットガンナーの力の前に朽ち果てた。黄泉の世界で出会ったのはジャック、パトレシアだった。

「霸王！魔法円陣を貼れ！出立の時だ！」「オオ！仁王！馬車の用意を。黄泉帰りの馬、ペガサスを召喚しろ！」「良いか、ジャック・ギヤザ里斯。明朝迄に戻れ。ペガサスが迎えに来る。何があつてもだ」「アア、わかつてゐる。皆、良いか？」ミサト、パトレシア、ボスコ、マリアは頷く。「衝撃に備える。死者と違い、肉体は圧力が架かる。一時的に黄泉で起こつた事が忘れる症状もある。気を付けて帰るんだぞ」

五人は再び生命の星に降臨した。たつた1日。

ビューン

次の瞬間、五人はウエストホースにいた。ジャックは渡された数珠を見る。「早くアドニスに渡さなくては」「そうね。アタイはレオのショットガンの覚醒」マリアの決意は絶対だつた。「早く、探しましょよ。アタイもレオに会わなきやいけないんだ。世話になつた礼をしなくては。ボスコあんたは？」「オラか？オラは田舎に帰るだ。皆に無事だと伝えるだ」「決まったな。おいらはジャックと一緒にだ。じゃあ、皆、明日会おう」「そうだな。別行動だな。ミサ

ト、ボスコ、マリア。無事を祈る。ジャーな。行くぞパトレシア！  
「ハアッ！」ジャックは颯爽とアドースの元に急いだ。「行くわよ！  
ミサト」「ハイ。先輩！」ミサトとマリアはフワリと浮き空を走つ  
た。「オラも」ボスコは故郷に向け、飛んだ。

「アレは？レオ？レオ・バレッタじゃない？船でこの大陸を出よう  
としている。マリアさん。私が引き止めます。マリアさんはショッ  
トガンの覚醒を…」「任せたわよ。ミサト」ミサトは急降下しレオ  
の元に向かった。

「マリアさん。……名残惜しいがお別れです。俺には背負いきれ  
ません。ただの男ですから」「ハーイ！レオ・バレッタ。元気？」  
「//……ミサト？剣ミサトじゃないか？お前…………」「嫌だね  
え。化け物でも見たのかい？その面は？」「……生きていたのか  
？」「イイヤ。死んでたさ。黄泉の世界から帰つて來たのさ。マリ  
アさんも一緒にだよ。元氣だつたかい？」「良かつた。俺は……  
俺には……無理だ。なあ、ミサト。そうだろう？ただの人間が土  
の神ライダーの継承者だなんて。俺は、出ていくさ。居ない方が幸  
せな時がある。今がその時だ。すまないな」「バカ言つちゃいけな  
いよ！アタイやボスコ、マリアさんが犬死にしたみたいじゃないか  
？勝手だよ！あんたは！アタイのあこがれたレオ・バレッタ様はどう  
うしちまったんだい？上層部が介入したらお役御免かい？冗談じゃ  
無いね！マリアさんもショットガンの覚醒に來たんだ！あんたのシ  
ヨットガンにマリアさんの意志、チャンクのリンクアップ！その全  
てが神々の力のはずだよ！あんたが背負うなんてガラじゃない！」

億と数千万億光年早いね。良いかいレオ！あなたの戦いには仲間の  
思いが詰まっている。今まで逮捕した盗賊の方々やら、マリアさん  
やら、チャンクやら。出でいくにしてもそれは忘れるな」「ミサト  
……やつと田が覚めたよ。俺には背負いきれない過去がある。  
戻れない道がある。その全てが奴に繋がるなら、俺はあの憎きショ  
ットガンナーを叩き潰す！そうだな？」「アア。そうさ。やつと田  
覚めたか？継承者よ。絆こそが道になり、絆こそが背負う過去にな  
る。それがわかつた上で出ていけ」「…………船長さん。船を戻し  
てくれ。俺には会わなきやいけない奴がいる。あの大陸に置いてき  
た絆が俺を呼ぶ。太古の昔の神々が。土の神ライドーが。聖騎士ロ  
キの生まれ変わりが。…………アインシャーク三世。すまない。後  
れ馳せながら加勢する。この出来損ないの継承者が」

「懐かしい空氣だね。チャンク」「アア。マリア。よくぞ帰つて來  
た。まあ、時間が無い。彼のショットガンに意志を込えてくれ」

「アドニス。久しぶりだな。火の神インフェルノの使いアドニスよ。  
黄泉の土産にこんな物を貰つてくれ」

続く

「マリアは自分の墓碑にいた。「惨めなもんだねえ。墓碑がアタイの宿敵の持ち物なんて。さてと覚醒させるかね。奴の呪縛を解かなくてはね」「……マリア？マリアじゃないか？」「ヨツ。チヤンク。元気そうじやないか？」「まあな。何の用だ？」「このショットガンはまだ覚醒していない。神々の力はこんなもんじやないさ。奴の呪縛に捕らわれている。兵器の鳴き声がアタイには聞こえたのさ。で、黄泉の世界から駆けつけた。呪縛を解きにね」「そうか……」残念だつたな。奴は大陸を出たさ」「フフ。アタイだけじゃないんだよ。剣ミサトもいるさ。彼女がなんとかしてるさ」「で、その……元、持ち主だが……」「ショットガンナーだろ？奴は黄泉の辻を破つた。アタイらは、1日しか復活できないんだ。明日になれば帰らなきゃいけないんだ。その辻を破つたのがショットガンナーザ」「つまり奴に帰る場所は無い。追い込まれていたのは奴か」「そうみたいだね。時間が無いんだ。呪解させて貰うよ」マリアはショットガンにダイブした。

「ショットガンよ。土の神ライドーの繼承者に手を貸して欲しい。レオ・バレッタ」「誰だ！我が中に入つて来る異界の者は？」「アタイはマリア。お前に殺された者さ」「ホウ。確か3年ほど前一度だけ会つたな。で、何の用だ」「今一度力が借りたい。あの時のように。今の奴を倒すにはこの兵器しか無いのだ。頼む。ショットガンよ。我々の絆を信じて欲しい」「私は計っていた。遠い神々の星より、生命の可能性を。生命よ。なんじらは弱い。だが、それで良い。弱いからこそ可能性に充ちているのだ。弱いからこそ、繼承

者に相応しいのだ。貴公等の絆。それが私の目覚めならそれで良い。だが、忘れるな。力を継承する者のさだめを。世界を滅ぼす力も、救う力も貴公等のさだめなのだ。しかと受け止めよ。我が力を！」

カーン！

ショットガンが輝き出す。

「オオ。この輝きは！マリア！」「大丈夫だ。こいつの覚醒は終わった。後は……」「……マリア。ありがとう。時間が無いんだつたな。お前らは。最後に言わせてくれ。俺はお前を……」「マリア！生きていたのか？」レオ・バレッタが走ってきた。ミサトと一緒に。「アア。見せてくれないか？アンタラのリンクアップを。土の神ライダーの継承者さん」「ヨシ。チャンク！リンクアップするぞ！俺とお前。それにマリアが覚醒してくれたショットガン」「レオ。よくぞ帰つて來た。ヨシ！行くぞ！アーマードバレッタ！俺と同化しろ！」レオはチャンクの対角線に立つた。空の青と二人の絆がリンクする。

カキーン！

レオは鎧を纏つた。マリアはショットガンを投げる。

クルクルクルツ……ガツキーン！

「レオ。良い調子だ」チャンクはレオの精神に話しかけた。「レオ・バレッタ。土の神ライドーを継ぐものよ。我が名はフォボス。ショットガンの主。これより貴公等に加勢する。忘れるな。レオ・バレッタ。お前らが辛い時も、楽しい時も、喜怒哀楽の全てを、この星を越えた神々の星より見ている。貴公等が道を誤った時、破滅の時が動き出すと。男、フォボス。確かにお前に貸したぞ。この神々の力を」フォボスはレオの精神に話しかけた。「チャンク。さつき言いかけた話しだが、お前はマリアを愛していたと。何故、言わなかつた?」「ケツ……照れくせえだけだ」「フォボス。だからチャンクは結婚出来ないんだ。祝いの準備はできているんだがな」「レオ!余計な話はするな!」「ハッハッハッ……まあ良い。片想いも力になる。そんな奴に限つて恋愛観がぶれていのさ」「そうか?……チャンク。そうだったのか?」「…………そうだ。弱つたなあ。フォボス。お前は俺の精神にもリンクできるのか?」「もちろんだ」

「マリアさん。綺麗ですね」「だろ?アタイもチャンクとリンク出来るが、悪いがアツチの方が綺麗だ。これで休めそうだな」「ですね。アノー……マリアさん。向こうに行つたら一緒に暮らしませ

ん？」「悪く無いね。バラバラに暮らしたらアタイのレオを捕られそうだし。こんな可愛いお嬢さんなんだから。あんたは」「へへへ。わかつちゃいました？負けませんよ。競争相手が多いほど恋愛は楽しい。そうですよね。オバチャン」「オバ……オバチャン？失礼だね！ミサト！待ちな！」

「アーマードバレッタ！これよりお前を保安官として就任させる。バッヂを受け取れ！餞別だ！」「……ボス。ありがとうございます」「急げ！一人とも！上層部が武力介入した大陸は支配下になるんだ！急いでショットガンナーを！アインシャーク三世とアドニスと共に葬るのだ！彼等が介入したら焼け野原になる！」「なんだつて！急ごうチャンク。リンクアップの時間は三分しか無いんだ！」「誰が三分と決めた？あくまでも私が完全に覚醒していない時の話だ。覚醒したフォボスは永遠。君達の意識次第で永遠なのだ」「……確かに。フレッシャーがあの時より楽だ。まるで繋がったみたいに」「……そうだな。俺もそう思った。あの時より楽だと。……導いてくれたんだ。神々の力が。俺達のリンクアップを」

一方、その頃、ジャック・ギャザリストとパトレシアもアドニスに合流しようとしていた。

続  
<

パトレシアとジャック・ギャザリスは一路、飛空挺ジュブナイルへ走っていた。

「あれは？ジャックか？ジャック・ギャザリス。邪神の欠片を無くした奴。ジュブナイルへ向かっている」アドニスはAINシャーク三世に連絡した。「AINシャーク。気をつけろ！奴がジュブナイルへ向かっている」「わかつている。またしても争う気か？様子を見よう」忌まわしき悪夢が甦る。浮游城を崩壊させた悪夢が。

彼は過去のジャック・ギャザリスとは違つた。仲間として参戦に来たのだった。凡字の数珠を持って彼は1日だけ帰つて來た。

「AINシャーク三世。過去は忘れられぬ。だから尊いのだ。どんな過去も拭い去れぬ。だから気高くなれるのだ。尊さ、気高さ、それが生命の可能性の器と言うのならそれで良い。だから戻つて來たのだ。黄泉の果てより」「久しぶりだな。ジャック」「AINシャーク。散歩か？……すまなかつたな。ジュブナイルか？こいつが浮游城の秘宝。太古の飛空挺。ガントレットオープ。それに神の遣いアドニス」「貴様！何を考えている！」「アドニス。これを」「なんだ？この数珠は？」「凡字の数珠。霸王、仁王に託された異世界の扉」「異世界の扉？」

死を越える星。死超星。彼等の秘宝の数珠を預かつたジャックはその事をアドニスに伝える。

「死超星の凡字？それを俺に？」「わからない。だが、神の遣いと死を越える星が交わる時、何かが始まる」「死を越える星か。……異世界だな」アドニスは戸惑いながら数珠を受け取った。

数珠から声が聞こえる。「目覚めよ。火の神の遣いアドニスよ。お前は新たな扉を開けなくてはいけない。ショットガンナーが黄泉の掟を破った。死んだ生命は1日以内に黄泉に戻る掟を破り、地上で生活している。お前は我が試練を受けよ」「つまり掟を破った者を殺める力。正義の刃」「そう。姿形は数珠に似ている。だが私は死超星の力。異世界の力。太古の昔、神々は生者と死者を別けた。生命の星と黄泉の国を作った。やがて2つを統べる機関。第3の隣国として監視機関。死超星を作った。我々は太古の昔より、その2つの世界を見ていた。神々と共に」「神々と死超星は同じ存在なのか？」「人は人智を越えた存在を神々と崇める。同じく個人の限界を越えた存在も神と崇める。そんな存在なのだ我々は。アドニスよ。似た者同士なのだ。神々と死を越える存在は甲乙付けがたい。同化せよ。我々と。元々我々は神々が作った存在だから、返還するだけだ。でなければショットガンナーには勝てん」「わかった。同化しよう。神々と死超星の融合体。新しき扉」「その名はゴッドインパルス。神の衝撃。疾風の様に宙を舞い、生命の星に正義を伝え

る騎士。行け！アドニス！行つて伝えよ！」

アドニスは赤き玉に包まれ、覚醒した。灼熱の炎を纏い、二刀流を構える騎士。人智を越えた存在。正義の刃、ゴッディンパルスに覚醒した。

「オオ。お前は」AINSHARKのガントレットオープが輝きだす。

キーン

AINSHARKはオープを纏い大剣の剣士、聖騎士ロキに覚醒する。

「ゴッディンパルスよ。お前か？私やライドーを導いたのは」「一部な。更なる戦士も各地で産声をあげている。世界が変わる時、その副産物で太古の器が覚醒する。人は時代と共に変わらうとしている。その舵取りが我々なのだ」「行きましょう。ゴッディンパルス。奴を倒しに。ショットガンナーを」「ウム。ついてこい！ロキ！」二人は空高く舞い上がった。

「これが死超星の力、凡字の力か？霸王、仁王よ。確かに渡したぞ  
アドニスに。我々は引き上げるとするか。黄泉の国の果てに」

ジャックとパトレシアは集合場所に急いだ。

「アラ？ 意外と早いのね。もう」用はお済み？」「マリア、ミサト。  
そつちはどうなんだ？」「順調よ。後はボスコね」

ボスコは故郷にいた。暖かい陽射しと町民の歓迎。ボスコは盗賊時代、盗んだ物を全て、故郷へ送っていたのだ。祝福されるボスコ。  
「町長！ すぐに宴の仕度を。今日はめでたい凱旋パレードだ！」「  
待つてくれ！ オツカア！ カアチャンはいるか？」「なんだい、ボスコ  
？」「オラ、謝らなくてはいけねえだ。やり残した事を精算しに来  
ただ！ 皆、聞いてくんねえか？」「なんだ？ 話つて」「……皆  
……すまねえだ。オラ、盗賊だったんだ。盗んだ物を全部町に流し  
ていただき」「なんだい？ ボスコ。水臭いねえ。そんな事、皆知つて  
ただよ。知つて受け取つただよ。これで町が潤うと。だから黙つ

「喜ぶだよ。生きてさえいてくれりやな」「オッカア……皆……知つてただか？知つて黙つてくれただか？」「ンダ。おめえの育つた町だろ？あたりめえだ。盗んだ物を返還してみい。おめえの命がアブねえだろ？が？皆心配だつただよ。足は洗つただか？」  
「アア。忙しいから。また盜賊家業にせいを出さなきや。ンジャな！また来るよ」

「遅いわよー。ボスコーレティを待たせるなんて」「帰るだよ。黄泉の国へ」「ボスコ。目が赤いぞ。『ンタクトレンズか？』」「ン？アア。そうだ」「似合つてるぞ」「ソウ？ママアマアじやない？ミサトちゃん。今度ファッションを教えてあげなさいな」

「ボスコは流れる涙を拭わずに走つて戻つた。

ぞ」ジャック・ギャザリス、パトレシア、ミサト、マリア、ボスコの五人は歩いて帰った。「で、どうするんだ?これから」ジャックは話しかける。「おいらはジャックと一緒にいるさ」パトレシアが話す。「アタイとミサトは一緒に暮らす。良いだろ?」「エエ。構わないわ」「オラ、一人で暮らすだ。気楽だしな」「また会えるか?」ジャックは四人を見た。「エエ。お望みであればね。デリカシーの無い馬は禁止よ」「おいらかい?」「他にいる?」「ハハハハ。…………そうだな。たまには会うか?ジャ一ここで別れよう。さよならだ」ジャックはパトレシアにまたがった。

「うしてジャック達の冒険は幕を降ろした。

集結の絆 完結

次回、土と火の戦士

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8345y/>

---

第6話 集結の絆

2011年11月30日12時51分発行